

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和5年5月18日(2023.5.18)

【公開番号】特開2021-188735(P2021-188735A)

【公開日】令和3年12月13日(2021.12.13)

【年通号数】公開・登録公報2021-060

【出願番号】特願2020-98160(P2020-98160)

【国際特許分類】

F 1 6 F 1 5 / 1 3 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

F 1 6 D 7 / 0 2 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

F 1 6 D 4 3 / 2 1 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

F 1 6 F 1 5 / 3 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

【F I】

F 1 6 F 1 5 / 1 3 4 D

F 1 6 D 7 / 0 2 A

F 1 6 D 4 3 / 2 1

F 1 6 F 1 5 / 1 3 4 A

F 1 6 F 1 5 / 3 0 Z

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年5月10日(2023.5.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

ここで、複数の組付用孔は、円周方向に並べて、かつ不等ピッチで配置されており、その一部に収容スペースが形成されている。そして、出力回転部材の第1収容部は、この収容スペースの径方向外方に配置されているので、組付用孔の取付径を大きくしても、第1収容部を比較的径方向内方に配置できる。このため、フライホイールの固定強度を強固にできるとともに、装置の大型化を避けることができる。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

第2ストッパ用孔42bは、第1窓孔41aの円周方向のR2側(以下、単に「R2側」と記載する)において、円弧状に延びる長孔である。第2ストッパ用孔42bのR1側の端部は、第1窓孔41aの径方向の中央部に連通している。

40

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

このような状態では、ダンパユニット20を回転させて、ダンパユニット20の組付用孔26, 43と、フライホイール2の固定用孔5と、を位置合わせすることが容易になる

50

。そして、組付用孔 2 6 , 4 3 から工具を挿入し、ボルト 2 7 を取り外せば、ダンパ装置 1 を クランク軸 から取り外すことができる。

10

20

30

40

50